



APAYeNEWS

アジア・太平洋Y M C A同盟月報 No.07/2010年 11月～12月 翻訳協力：荒木勇磨・伊藤剛士

1. 総主事便り「希望を持って」



数多くの思い出と共に、第28回アドバンスコースが終了しました。今回は、アフリカのトーゴからの1名を含む、8カ国12名が参加。参加者一人ひとりに本プログラムに何を期待しているのか聞いてみました。もちろん、全員がY M C A自体について学びたいという意志を持っていますが、ほとんどの人が他国での活動や、どうやってお互いの距離を縮めるかについて関心を持っていました。以下では、彼らがなにについて学んだのか、そして今後の抱負について共有したいと思います。

ソルはフィリピン・ミンダナオ島にあるミサミスオリエンタルY M C Aの総主事です。彼女のY M C Aは大きな変化を遂げました。この変化は彼女自身に起こったものと言えるでしょう。彼女は、Y M C Aは世の中をよりよくすることが出来ると信じています。この変化はこれまでも、そしてこれからもこのY M C Aの中で見え続けるものです。リーダーシップ開発、会員増強、コース育成に取り組もうとしています。フィリピンでこのような変化と、強いリーダーシップが示されたことを嬉しく思います。

ジョナサンはスリランカ・カルミナイY M C A総主事です。彼らは津波や内戦といった悲劇を体験してきました。彼の地域は90%がタミル人で、多くの犠牲者が見られました。Y M C Aでは教育や必要な医療ケアを、社会から取り残された人々に提供したいと考えています。

ジミーは中国・成都Y M C Aのスタッフで28歳。彼は若く、子ども向けの農場プロジェクトを始める予定です。2年前、大地震を経験し、多くの人が亡くなりました。Y M C Aは親を亡くした子ども達のために、児童養護施設を運営しています。多くの子ども達が父親または母親のどちらかしかいない状況に置かれていますが、彼は子どもたちが給食向けの鶏、豚、野菜等を育てられるような農場を作りたいと考えています。

ジャクソンはミャンマーのネピドー(新首都)Y M C Aの総主事です。ミャンマーは人口の70%が農民で、彼が夢見る計画は3ヶ月のユースリーダーシップ研修、コンピューターや農業訓練です。彼の計画は持続的に収入を得るためのもので壮大な計画ではありませんが、十分に実現可能なものだと思います。

ジョーはミャンマー・パテインY M C Aの主任です。彼は2008年のサイクロン・ナルギスにより被災した孤児達のケアを担当しています。状況は未だに良くなく、子ども達のための教育、医療ケアといった強いサポートが必要とされています。彼は、Y M C Aはこういった子ども達と支援者の橋渡しをする存在である、と言いました。

リチャードは中国・南京Y M C Aの主事です。彼はプライマリーケアプログラムに関心を持っており、超高齢地域で多くのボランティアと共に実行したいと考えています。



リーは韓国 Masan Y M C A の主任主事で、ユースセンターを担当しています。この Y M C A は市民運動、ユース、医療、3つの委員会があります。韓国の Y M C A は市民運動という点においてユニークです。彼女の夢は地球市民育成センターを立ち上げることです。

サンシンは韓国 Y M C A 連盟から参加しました。彼はレイリーダーシップアカデミーを立ち上げ、クリスチャンになりたての人が神学実践について学ぶ場の創設を考えています。そしてユースとともに、ユースによるプログラムをさらに増やそうと考えています。



日本から参加した金弘明さん(在日本韓国 Y M C A)は、日本にいる外国人の問題に関心を持ち、そして若者ともっと行動を起こして行く Y M C A にしたいという願いを持っています。

エリックは香港中華 Y M C A の大型ウエルネスセンターで働いています。彼は就職できなかった若者や、香港で関心が高まっている肥満の問題に関心を持っています。彼は若者を肥満対策のトレーナーとして育てたいと考えています。

サニーも香港中華 Y M C A で働いており、貧困地域センターに所属しています。彼の関心は LD や ADHD といった障がい児の教育のためのリソースセンターを作ることです。

そしてついに、我々はアフリカの Y M C A スタッフを迎えることができました。ココウはトーゴ Y M C A の総主事です。彼は Y M C A とかかわりを持ってから日が浅いですが、その責任は大きなものです。トーゴ Y M C A は 60ha の面積と大きな湖を持った農場を所有しています。彼の壮大な計画は、有機農法と新しい技術を若者に教えることです。

いかに効果的に人々の生活をよりよくするか、皆悩み苦しんでいます。コミュニティとユースエンパワーメント、これは我々の社会を変えるための方法であり、これこそ本当の Y M C A ムーブメントであると言えます。

我々は毎年アドバンスコースを実施し、その度に新しいことを学び、Y M C A ムーブメントとは何であるのか、より深く考えさせられます。これは全て各々が活動を通じた地域への影響を通して抱いた思いからくるものです。夢や戦略を共有し、異なった例やアイデアを知り、非常に有意義な時間となりました。



2. 運動強化に向けての取り組み

インドネシア Y M C A 同盟事務所がスラバヤへ移動

報告：インドネシア Y M C A 総主事 Ms. Retha Andoea

2010年11月6日より、インドネシア Y M C A 同盟事務所がスラバヤにオープンしました。これはインドネシア Y M C A の再建計画の一環であり、特にスラバヤ Y M C A は早急に実行に移すことが必要と考えられており、インドネシア Y M C A 同盟常務委員会とパートナーズ・サポート・グループ (PSG) による判断です。インドネシア Y M C A 同盟は、以前はジャカルタを拠点としていました。

最初にメンバーシップキャンペーンとスラバヤ Y M C A 委員の再選考が実施される予定です。Y M C A / I M K A スクールの卒業生達は学校再建だけでなく、スラバヤ Y M C A 自体の再建にも積極的かつ自主的に関与しており、卒業生達が委員としての働きを担う重要なリソースとなるこ

とが期待されます。

Y M C A / I M K A スクールの評価チームが結成され、調査の結果が次の主事会議(2011年2月)で報告される予定です。講師、スタッフ、学生達からのフィードバックは肯定的でかつ希望に溢れたものとなっています。皆、再建は彼らの現状を変えるものになると信じています。しばらくの活動休止期間を経てついにこのたび月例礼拝を開始し、校長や教職員で学校経営についての話し合いも行われています。

この再建計画は、インドネシアのY M C A 全てが協力し合い、このY M C A を復興させようという精神を共有したときのみ実行可能となりうるものです。そして、アジア・太平洋同盟と PSG のサポートは、この再建計画を円滑化する上で大きな役割を果たすものと言えます。

3. 更新情報

第18回アジア・太平洋Y M C A 大会について

2010年11月11日～13日に、第18回アジア・太平洋大会運営委員会がマレーシア・ペナンで開催され、プログラムの詳細予定について協議しました。今回のテーマとして提案されたのは「Breaking Barriers, Transforming Lives (心の壁を乗り越え、思い切った変革を人と社会とY M C A に-仮-)」です。このテーマには、より多くのユースを巻き込み、ユースがリーダーシップを取り、世の中を変えていこうという願いが込められています。

委員会では、大会会場となる Bayview Georgetown Hotel とフィールドトリップの候補地を訪問しました。また運営委員会直後の13-14日に、ガヴァナンス・スタディグループも同地で会合を持ちました。ガヴァナンスとリーダーシップ構築は、総会の中でも重要視されている項目のひとつです。

第18回アジア・太平洋Y M C A 大会は、2011年9月6～10日に開催されます。また大会に先立ち、第2回アジア・太平洋ユースアセンブリーが9月3日～6日にペナンY M C A にて開催されます。現在、ユース委員会ではコンセプトの明確化をすすめており、2011年3月の常務委員会で発表される予定です。

Y M C A グリーンチーム

Y M C A 向けオンライン二酸化炭素計算システム

二酸化炭素排出削減に取り組むY M C A を支援するために、APAY グリーンチームはオンライン二酸化炭素計算システムを作りました。このシステムを使うことで、Y M C A がより環境にやさしい団体となることが期待されます。

現時点での詳細は以下のURLから見るができます。

<http://communitysites.impulse.net.au/apay/apaycc.htm>

各Y M C A による活動報告

* ニュージーランド・クライストチャーチY M C A、オーストラリア・ピンディゴY M C A は二酸化炭素削減計画に大きく貢献しています。APAY グリーンチームの一員である Mr. Colin Lambie に感謝を申し上げます。

* 岡山 Y M C A は岡山市や他 NGO とともにキャンドルナイトを企画しました。毎月一回、電気を消し、ロウソクの日を灯すことで、エネルギー節約と関心喚起を行うことを目的としています。

* Y M C A タイ北部開発基金がチェンマイで開催した環境及びエネルギー保全ワークショップに、29 校から 44 名の教員が参加しました。ワークショップでは、「学校内外や地域コミュニティで環境及びエネルギー保全をいかに実践するか」について教えるための指導法を学びました。

* ネパール Y M C A では APAY グリーンチームの一員である Ms. Lister Cheung が、再生可能エネルギーの導入の可能性を学ぶための特別プログラムを企画運営しました。

Y M C A グローバル・オルタナティブツーリズム・ネットワーク

アジア太平洋地域にはオルタナティブツーリズムを推進している Y M C A がいくつかあります。これは観光客を受け入れる地域社会の利益と、訪問者に対してその地域社会についての学習や課題を共有する機会を提供するものです。

* インド・異教徒間のガヤ巡礼：ガヤ Y M C A では 10 日間かけて、仏教遺跡であるパトナのガヤへの巡礼を行います。詳細は、ガヤ Y M C A 総主事 Mr. P.R. Dwyer (gayaymca@iffmail.com) まで。

* インドネシア・ジョグジャカルタ教育ツアー：ジョグジャカルタ Y M C A による「異文化間の出会い」は、ジャワ文化と村の日常生活を学ぶ機会を提供します。プログラムは 9 日間のものと、5 日間のものがあります。詳細は、ジョグジャカルタ Y M C A Y ツアーデスク (ogya59@gmail.com) まで。

* ネパール：アジア・太平洋 Y M C A 同盟のパートナーシッププロジェクトのサポートを受け、ネパール Y M C A は地域の若者がオルタナティブツアーを企画実践できるような訓練を行いました。このツアーは、ユースの育成と Y M C A の環境保護活動の双方に利益がもたらされるでしょう。第一回のツアー「地域、海外ユースのための教育、文化、環境ツアー」は 2011 年 1 月 5-11 日に実施されます。詳細は ymcanepal@wlink.com.np まで。

Y M C A グローバルオルタナティブのホームページは現在試行期間で、来年の出来るだけ早い時期に正式公開される予定です。ホームページ上で各 Y M C A が関連情報をアップしたり、予約したり出来るようにする予定です。また、ホテル、ゲストハウス、キャンプ情報を公開する場も提供される予定です。

関心のある Y M C A はアジア・太平洋同盟の担当者 Jose (jose@asiapacificymca.org) までご連絡ください。

4. アジア・太平洋 Y M C A 同盟 ユースインターンの紹介



フィリピン Y M C A の Ms. Maria Kristina O. Velez が APAY のユースインターン(2011 年 1 月～)に選ばれました。インターンとして、地域のユース開発プログラムや、ユースアセンブリー2011 を含むユース関連の活動運営に関わる予定です。また、アジア・太平洋 Y M C A 同盟のユース委員会も担当する予定です。Ms. Velez は第 3 回アジア太平洋 Uni-Y 会議 2010 の委員長であり、昨年マカオで行われた地球市民育成トレーナーのためのトレーニング参加者で

もあります。また、2008年に韓国で開催された東アジア学生 Students Gathering for Peace and History にも参加しています。21歳の若きリーダーは、地域とフィリピンの国の双方のYMCAの活動に関わってきました。学生時代はカレッジYで、Rizal Youth Leadership Training Institute (RYLTI) scholarとしてユースディベロップメントプログラムを企画していました。アジア・太平洋YMCA同盟では、彼女を歓迎します！

ユースインターンシッププログラムは、ユースのリーダーシップ育成と参画促進のために行われています。

5. 私達の最新の活動より

バングラデシュYMCA：新理事長を選出

バングラデシュ・Savar YMCAのMr. Babu Markus GomesがバングラデシュYMCA同盟の新理事長に就任されたことをお祝い申し上げます。選挙は2010年11月26日、Savar YMCAトレーニングセンターにて行われた第34回バングラデシュYMCA総会のなかで行われました。

インドYMCA：ナショナルユースプログラム

インドYMCA同盟 Mr. Rajiv John (ユース担当主事)

2010年11月5～7日、第6回全国ユース大会がチェンナイにあるYMCA社会体育専門学校で開催されました。テーマは「地域とあなた自身に変化を」です。8地域35のYMCAから120名が参加しました。プログラムではYMCA専門学校の歴史、地域に結束をもたらす上でのYMCAの役割、地球市民教育とリーダーシップ育成について協議されました。また同盟のリーダー達により、厳かな開会式が執り行われました。

2010年10月26～30日、YMCAナショナルユースキャンプがニューデリーYMCAのサタルキャンプ場で開かれました。

この冒険心に富んだユースキャンプは同盟のユース活動部門によって企画運営され、9地域から190名の少年少女達が参加しました。テーマは「アースデイエブリデイ」です。ユースの躍動感を維持し続けるという目的とともに、18歳から20歳までのユースは冒険心と、'Outward Bound Learning'というユニークな方法で五感を磨く貴重な機会を得ました。

キャンプ参加者達は、大自然により近づくためにトライアルウォークを行いました。また、キャンプ生活では参加者同士の多様な面を知るために様々な活動に参加しました。例えば、カヤックや水泳といったウォータープログラム、ロッククライミング、谷渡り、テント設営、さらには宝探し、リーダーシップビルディングやグループダイナミズムといったものです。

地球市民という概念もここで改めて紹介されました。キャンプの最も盛り上がる場所であるキャンプファイアーではそれぞれ個性が発揮され、大いに楽しめました。

インドYMCA同盟では各YMCAに、主事研修(2011年6月～2012年3月、バンガロールの神学校)への参加を呼びかけています。この10ヶ月のトレーニングプログラムは、神学と倫理を理解したうえで、YMCA運動を計画・推進するために必要なスキルを構築することを目的としています。これは新しいYMCAのミッションを深く理解するための新しい試みであり、各課題に対してYMCAのミッションをより明確にさせるものと言えます。

問合わせ：インドYMCA同盟 Mr. George Varghese (研修担当)

E-mail: ymca_trg_india@rediffmail.com

日本YMCA同盟：女性スタッフ研修

日本YMCA同盟 横山由利亜（ユース・国際担当スタッフ）

2010年11月5日、第2回女性スタッフ研修が、日本YMCA同盟ジェンダー委員会主催で開催されました。YMCAに5年以上勤務している16名の女性スタッフと2名のリソースパーソンが横浜YMCAに集いました。この研修では、女性スタッフが、それぞれのライフスタイルにあった仕事をおして、人生の喜びや前向きな気持ちをもって働くための自分の考えを再考する目的で行われました。参加者は、自己や他人の意見を尊重するコミュニケーションスキルを省みる機会がありました。また、アサーティブジャパンの矢田早苗さんによるアサーティブトレーニング、アジア・太平洋同盟ジェンダー委員会の前委員長である武田寿子氏がファシリテーターを務めたセッションでは、女性が自立して働くための、時間・キャリア管理の重要性が説かれました。

参加者の感想より

「YMCAのミッションを、スタッフや仲間と共に達成していくために必要なコミュニケーションスキルを見直すことができました。」「このようなスキルトレーニングの機会は男女両方にとって必要なものにも関わらず、私達女性は、同性と接する時に限って自由に・前向きに発言できるような感覚がいまだにあります。また、女性のスタッフはこのようなトレーニングに参加する機会が比較的限られているという現状もあります。」「ロールモデルとなる多くの女性スタッフとの出会いがあったことは、私にとってとても貴重な経験になりました。」「私はこれまでに、YMCAでも家庭でも、自分の役割と未来に制限をかけていたことに気づきました。」

ニュージーランドYMCAとホワイトリボン

11月25日は国際女性への暴力排除デー

ニュージーランドYMCA最高経営責任者 Mr. Ric Odom

最初のホワイトリボンキャンペーンは、1991年のモントリオール大学の14人の女子学生による残虐な射撃事件の後に、男性のグループによって開始されました。そして1999年に国連は公式に11月25日を女性への暴力を排除するための国際的な日と決めました。ホワイトリボンは、女性と少女が暴力の脅威のない世界で暮らすことができるようにとの願いが込められた希望のシンボルです。このリボンを身に着けることは、暴力排除へのチャレンジの姿勢を示します。すなわち、男性をこの運動に巻き込み、女性が感じる抑圧感を排除するのを手伝い、そして世界の全ての人を巻き込んで行き、全ての人にとってより良い世界を作るための運動を推進していくということです。

このキャンペーンは、ニュージーランドの町や都市の地域のグループによって行なわれ、近年急速に、毎年恒例のキャンペーンへと成長しつつあります。ホワイトリボンの日のイベント、またこの運動は、企業・文化団体・スポーツチーム・地方行政、また多くの地域社会や行政団体からの支援によって行なわれています。



ニュージーランドYMCAは、ニュージーランド・ホワイトリボンキャンペーンとパートナー団体であり、国内の全てのYMCAがこのキャンペーンを支持し、各拠点でホワイトリボンを配布しています。多くのYMCAは地域のキャンペーンに参加し、リードしています。（写真左から2番目が筆者。筆者左はホークスベイYMCA経営責任者のピーター・アンダーソン氏。筆者右はトコロアYMCA経営責任者のウェンディ・ジョリー氏。バイクの周囲にいるのは、キャンペーンを開催したトコロアYMCAのスタッフたち）

ニュージーランド・ホワイトリボンキャンペーン実行委員の一員として、またオートバイを好

む一人として、私は「ホワイトリボン・ライド」というキャンペーンにとりわけ関心があり、またその責任者でもあります。このアイディアはハーレーデビットソンというオートバイを持っている同士たちの長年の夢でした。この夢の実現の一つの形として、私達は、特に女性に対する非暴力という理想を広めていくために、ニュージーランド国内をツーリングし、このメッセージを広めていこうと考え、そのためにスーパー・マオリ・フラスというツーリング部隊を創設しました。これにはパリオット自衛部隊ツーリング部という、現役・引退済みの軍人からなるグループのメンバーも加わりました。彼らもこのスーパー・マオリ・フラスの目的に賛同してくれましたので、こうして「ホワイトリボン・ライド」が生まれました。ホワイトリボンの日の前後1週間に、ニュージーランドの北の島をツーリングし（ツーリングを南の島まで行なうという計画もありました）、ライダー達は大小様々な規模の様々な地域コミュニティを訪れます。革のウェアを着て、大きく力強いバイクに乗った我々は、どこへ行こうと、人々の注目の的になり、多くの人たちが集まってくるでしょう。私達が運ぶメッセージ、すなわち女性への暴力の反対、というのはこのバイク部隊とは正反対のイメージでしょう。だからこそ、この運動は人々の心に大きく印象付けられるのだと私は思うのです。

私は軍人ではありませんので、このような人々と一緒にツーリングができることは、このキャンペーンに参加した特権だったと思います。また、それ以外にも、オートバイが大好きな他のYMCAのスタッフやマネージャーとも一緒にツーリングできたことも、また特権といえるでしょう。

このキャンペーンの中心のメッセージ、すなわち男性から女性への暴力は許されない、ということは、我々YMCAの理念と通じるものであることというのは明らかです。であるからこそ、私は世界中の全てのYMCAにもこのメッセージを共有してもらい、また世界の各拠点でホワイトリボンキャンペーンを行なってもらいたいと思います。

このキャンペーンをさらに知りたい方、写真を見たい方は、キャンペーンのサイト www.whiteribbon.co.nz もしくはニュージーランドYMCAのサイト www.ymca.org.nz またはFacebook のページ <http://www.facebook.com/YMCANewZealand> をご覧下さい。

フィリピンYMCA：運動強化プロセス

フィリピンYMCA パブリート.A.タブコル（副総主事・運動強化プログラム担当）

地域のYMCAの状況を改善するために、フィリピンYMCAではその運動強化を積極的に支援していますが、この運動強化プロセスの第3弾として、新たに5つの国内のYMCAが、その広範囲にわたる計画に関する協議の後に新たに加わりました。North Luzon地方から1つ、South Luzon地方から1つ、Visayas地方から1つ、そしてMindanao地方から2つのYMCAが選ばれました。この計画には、収入を生むための施設の改善、社会的に関連したプログラムの提供、スタッフやボランティアの研修、ユース育成や子どもの教育のためのプログラム、が盛り込まれています。運動強化プロセスの第1弾・第2弾では、地域のYMCAの発展にとって必要と思われるアクションを行い続けています。今、フィリピンにある25のYMCAのうち、14のYMCAがこの運動強化プロセスの全過程に関わっています。リソースモビライゼーション・コミュニケーション・YMCAブランドの確立といった課題が、次の年の計画で互いに統合されていく予定です。

この運動強化プロセスの構成要素の一つのプログラム開発として、2010年12月4日に、全国アカデミック・オリンピックを、ホテル・インダ・マニラで開催しました。2010年に行なわれた世界YMCA大会のテーマ『いま、地球市民として生きるために(“Striving for Global Citizenship for All”)』をこのオリンピックのテーマとし、地域のYMCAで開かれたアカデミック・オリンピック地域大会を勝ち抜いたユースの団体が参加しました。全国アカデミック・オリンピックは、全ての教育課程にいるユースの知識・創造力・才能といったものを競わせる友好的な競技です。また、ユース参加者が互いに個人・団体レベルで関係を強化し、より大きな運動に繋げていくための場として提供しました。

シンガポールY M C A : 21世紀IAVE世界ユース会議を共催

21世紀国際ボランティア運動協会(IAVE)世界ユース会議2011が、1月21日～23日にシンガポールにて開かれます。この3日間のイベントには、世界中から400人のユースボランティアが集い、ユース参加者の間に出会いを生み、そこから互いの知識・経験・ボランティアに関する様々な目的・目標を共有する機会が持たれます。それらは、ユースの友情の促進から相互作用効果、そして国際的なユースボランティア運動の強化へと繋がっていきます。この会議は世界ボランティア会議2011と提携しており、更に大きな意義として、国連世界ボランティア年の10周年記念会(IYV+10)とIAVEの40周年記念会と併催という形になりました。

IAVEは世界規模でボランティアの推進に努める団体であり、今回の会議は初めてアジア・太平洋地域で開かれる会議となります。アジア・太平洋同盟ユース委員であるオリバー・ローク氏(シンガポールY M C A)がこのユース会議の議長を務めます。この会議はシンガポールボランティアセンターとシンガポールY M C Aの共催で行われます。

6. 第3回 Uni-Y 会議

報告：第3回Uni-Y会議実行委員長のMs.クリスティーナ O.ヴェルス



フィリピンを突如襲った台風にもかかわらず、また数ヶ月前にマニラで起こった悲惨な事件の影響による多数の参加者のキャンセルがあったにもかかわらず、フィリピンY M C Aとバギオ市Y M C Aの共催で、第3回Uni-Y会議が行なわれました。会議は10月19～24日にバギオ市のティーチャーキャンプにて行なわれ、今回のテーマは「BAYANIHAN 2010: 生きること、働くこと、助け合うこと - 共に生活を変えていく」でした。参加者は45人で、インドネシア、ミャンマー、日本、シンガポール、アメリカ、そしてフィリピン

から参加者がありました。

予期できぬ悪天候により、全てのスケジュールで調整や変更が必要になりました。さらには道が閉鎖されてしまっていたため、安全性の理由により予定していたバギオ市への訪問を1日遅らせました。日中のセッションと活動はマニラ・ダウンタウンY M C Aで行なわれました。幸いにも、マニラ市から来てくださった基調講演の講師は変更後のスケジュールにも対応くださり、多少の変更はあったものの、指定のテーマにそって、プレゼンテーションやパラレルセッションといった全てのプログラムを行うことができました。

IBON財団・国家派遣スタッフのMs. Carla Samonte-Santos氏がキーノートスピーカーでした。基調講演の中で彼女は、今回のテーマの言葉の意味を強調しました。すなわち、生きること(LIVE)は個人の生活の物語であること、働くこと(WORK)は私たちが物事を導いたり奉仕したりする力を持った個人であるということ、そして最後に助け合うこと(Help)はBAYANIHANの重要な要素である、といます。ここで言うBAYANIHANは、BAYAN(コミュニティという意味)の中にある全ての個人がBAYANI(ヒーロー・ヒロイン)になりうるという意味が込められています。基調講演の理解をさらに深めるためのプレゼンテーション・議論・分かち合いの時間では、「ボランティア」という言葉の意味の重要な要素は何か、どうやったらその一員



になりうるのか、様々な社会的問題の影響を受けているコミュニティの中で、自発的に行動を起こして貢献していくにはどうしたらいいか、そして、ボランティアという概念をどのようにして広めていけばいいのかといったことがトピックとなりました。

Our Assembly Talesのセッションでは、参加者の所属しているYMCAにおけるコース関連の事例を分かち合う時間もたれました。これは特に、未だに発展途上にあるYMCAに、今後の方針の示唆を与え、参考としてもらうことを意図して行なわれました。これは端的に言えば、全てのYMCAが1つの大学に集まり、そのキャンパスでお互いを高めあうようなものでした。それぞれのYMCAのブースがあちこちに作られ、参加者は興奮の渦の中で写真を撮ったりして楽しんだりしました。もちろん、全ての参加者がとても好奇心旺盛であったので、それぞれのブースの担当者が一度は質問を受け、回答するという事態になりました。さらに参加者たちは、違う国のメンバー達の前で自身の経験を伝え、今まで理論立てられてきた概念を、今度は実際のコミュニティに適用していくということと一緒に考えました。このプログラムの最後にはまとめとして、今回学んだことを分かち合い、そして今後のアクションプランを作り、発表をしました。

参加者の感想より

私がインドネシアの代表としてこの第3回Uni-Y会議の参加者に選ばれたという知らせを聞いたとき、どうして選ばれたのだろうと疑問に思いましたし、また自身がそれに相応しい身である自信がありませんでした。私が所属するYMCAが現在十分な活動ができていない状況で、この代表としてどのようにこのプログラムに貢献できるのだろうと、自分に問いかけました。しかし、この第3回Uni-Y会議を通して、私達は再び目を覚まし、希望を取り戻し、未来へ向かって自信と夢を取り戻しました。そして今、ここでの学びを今度は自分の所属するコミュニティで実現させようと、挑戦を始めました。一つのBayan（コミュニティ）を目指して！

(インドネシア・ジョグジャカルタYMCA、Aditya Christo)



私はこのプログラムで、フィリピンの文化と地球規模の問題について、様々なことを学びました。そして、ここにいる全員が会議に参加できているのを見て、とても幸せな気持ちになりました。誰もが皆親切で、とても感動しました。私は、様々な問題をグローバルな視点で考えることが重要に思います。私の英語はとても限られたものですが、しかし、もっと本腰を入れて英語を勉強しようと、今、心に決めました。次の年はもっと流暢に喋れるようになっているでしょう！次の会議では、私の成長を見るのを楽しみにしててください！

(早稲田大学YMCA、塩澤壮吾)



私はバギオ市にある、援助と心の癒しの官庁(Helping Hands Healing Hearts Ministries)の一部である子どもの施設の見学で、とても衝撃を受けました。それは、そこにいる全ての若者が元気で生き生きとしていたからだけではありません。苦難の中にいる子どもたち、特に亜急性硬化性全脳炎(Subacute Sclerosing Panencephalitis)にかかった10歳のRosalindaは、私の「からっぽ」と思われた感情を揺さぶり、目を覚まさせました。私自身一人の父親として、彼女が「父親の愛」を知らないことにとても同情を覚えました。しかし、このプログラムを終えて帰国した私は、今までのからっぽの心と精神ではなく、新しい視野と再び動き出した心が私にあることに気づきました。それはまるで、神様が、これからは人々に尽くし、祝福を与えなさいと、私に呼びかけているようにさえ思えます。

(シンガポールメトロポリタンYMCA、ボランティアコーディネーター、Andy Aw)

今回の会議は若手のリーダー、特に私達のような学生リーダーのリーダーシップ育成にとって、とても有益であったように思います。至らない点も沢山ありましたが、ここでのトレーニング、友情、経験は、かけがえのないものであり、それらはこの会議のことを再び思い出させてくれるでしょう。最後に、ヘンリー・フォードの言葉を引用させていただきます。「共に集まることは始まりである。それを維持することは過程である。共に働くことが成功である。」

(フィリピンYMCA、Mark Joseph Alariao)

7. スリランカ YMCA 平和のためのスクール

2010年11月22日より、スリランカのNegombo YMCA インターナショナル・ホテルにて、3週間にわたる平和のためのスクール(SOP)が、アジア・太平洋YMCA同盟によって初めて開催されました。そして、異宗教間協力フォーラム(ACF)も同じく開催されました。アジア・太平洋同盟は、この短い期間のSOPのために、アジアのYMCAからこのプログラムに参加者を集めるために特別な努力をしました。それは、平和の実現のために、地域のYMCAに異なる宗教の間での協力を実現しながら働いてほしいという目的があったからです。

11の国から21人がプログラムに参加しました。バングラデシュ、ミャンマー、カンボジア、インド、インドネシア、ケニア、ネパール、フィリピン、スリランカ、スーダンから参加者がありました。8人の参加者が女性でした。17人がクリスチャン、2人がイスラム教徒、1人が仏教徒、1人がヒンドゥー教でした。

インドのバンガロールでICF主催により14週間にわたって開かれた最近のSOPに基づいて、コースは以下の簡潔でありながら強烈な3つのテーマに基づいて行なわれました。それは、自己と多様なアイデンティティ、葛藤・暴力・平和、そして私たち自身とコミュニティを変えること、の3つです。プログラムの一部として、各セッションでは、クリティカル・シンキング(批判的思考)、コミュニティ形成、人権、そして仏教・キリスト教・ヒンドゥー教・イスラムといったアジアの主要な宗教、といったテーマが扱われました。それらは全て平和を作り出すことに繋がります。

参加者たちは、各自のこれまでの経験と照らし合わせて、各セッションからどのような事を学んだか互いに分かち合うように促進されました。南アジア・東南アジアからの参加者のそれぞれの多様な背景、そしてパレスチナ・ケニア・スーダンからそれぞれスリランカに来てYMCAでインターンシップとして働いている人々のアドバイスで、それぞれの考えをうまく分かち合うことができました。

各セッションでの学びを現実に生かすために、プログラムの中盤の5日間にはフィールドワークのセッションが組まれました。4つのグループがそれぞれスリランカの異なった地域を訪問し、人々の生活と様々な家族の物語を学びました。訪問先は、失踪した人々の残された家族たち、津波の被害者、タミルの紅茶プランテーションの労働者、多宗教コミュニティ、国内避難民(IDP)コミュニティ、などです。

3週間のプログラムの最後には、参加者は振り返りのレポートを書き、それを発表しました。レポートは、各参加者がこの3週間の経験を振り返る機会を与え、何を学んだか整理し、今後追及したい課題を見つけさせ、そして、各国・組織に帰った後にここでの経験をどのように生かしたいかについてのビジョンを共有するために役立ちます。

今回のスリランカのSOPで使われた全ての資料と、参加者たちの振り返りは、以下のホームページでご覧になる事ができます。<http://sopsrilanka.wordpress.com/>

8. アジア・太平洋同盟常務委員会

アジア・太平洋YMCA同盟常務委員会と常置委員会が、2011年3月9~12日に、香港中華Y

MCAにて行われます。提案されているアジア・太平洋同盟の運営方式とリーダーシップ機構に関する特別なセッションは常務委員会冒頭の全体会にて行なわれます。各国総主事会議は3月8日に行なわれます。

3月13日(日)には、香港の2つのYMCA(香港YMCA・香港中華YMCA)の誕生110周年を祝います。全ての常務委員はその合同夕食祝賀会に招待されます。是非ご出席をご検討下さい。詳細はまた後ほどお伝えいたします。詳細はアジア・太平洋同盟のウェブサイト www.asiapacificymca.org をご覧下さい。

9. 私達のネットワークとパートナー

国際ワイズメンズクラブ・カーボンオフセットのための基金

ワイズメンズクラブ国際協会の宣言文にある通り、ワイズメンズクラブは環境中の炭素循環量に対して中立な組織になろうとしています。そこでYMCAやワイズメンズクラブの再生可能なエネルギーに関するプロジェクトのための特別な基金が、このたび設立されました。この基金からの支援金は、各プロジェクトでどれほど再生可能エネルギーを生産したかの量に応じて与えられます。詳細は、アジア・太平洋YMCA同盟 (jose@asiapacificymca.org) まで。

特集：オーストラリアの21世紀の次なる動向

2009年11月27日、ある年次総会に出席するために、私はオーストラリアのBundabergにいました。研究者であり未来学者であるMr. Mark McCrindle氏による、オーストラリアの将来の動向に関するセッションがありました。彼の分析では、この数年のうちに、オーストラリア人の動向と本質は大きく変わるだろうということでした。ここでは彼の発表の中からいくつか分かち合いたいと思います。これはオーストラリア人だけに当てはまるものではありません。これは私たち誰もが目にするであろう動向です。この分かち合いが、みなさんの興味を引き、より素晴らしく大きなYMCAムーブメントのための将来計画に生かされることを、望んでいます。

私たちは、将来の社会で、私達の人口・全労働人口・ライフステージがどう変化していくか、知る必要があります。

人口の変化：オーストラリアの人口は1983年から50%増え、現在では2,200万人います。これは年平均では2%の増加ですが、例えば、New South Walesにおける人口増加は年32%にも昇り、それゆえ地域の違いはとても大きなものといえます。人口増加の最たる理由はベビーブームによるもので(年間30万人の赤ちゃんが出生)、これは前回の1950年のベビーブーム(年間27万人)以上です。続く理由は移民によるもので、またこれにより高齢化が進んでいるとも見ることが出来ます。

全労働人口も高齢化しています。これは結婚を考えている若い世代にとって脅威になるでしょう。2020年までに3人に1人がリーダーの引継ぎが必要となり、現行の2人に1人のリーダーはこの10年で退職するでしょう。

今、短い期間でキャリアを変えるという傾向がどんどん広がっています。一つの仕事を続ける平均の期間は、過去は12年だったのに対し、現在では4年と言われています。また、平均的な人ならば、生涯に5つの仕事を経験するといわれています。この背景には地域・グローバル両レベルで流動性が高まっていることが挙げられます。4人に1人が事業を新たに興こしたり、自営業になった

りしています。

今日、60歳代になっているベビーブーム世代の人口の24%は、オーストラリア全土の富の55%を所有しています。労働人口は今日の35%から2020年には15%へと減り、その間にジェネレーションYと呼ばれる30歳以下の人口は、18%から35%に増えるでしょう。このジェネレーションYは、ハイテクノロジーによりさらにグローバル化し、彼らは「ドットコムジェネレーション」と呼ばれています。したがって将来私たちは、経験よりも情報に簡単にアクセスができ、多様な職種において労働人口を得ることができるようでしょう。

今日、100の有名ブランドをリストアップしたら、それらの会社は100年は存続するでしょう。しかし、トップ10に入るほどよく知られているブランド、すなわち、コンピューターやモバイル関連の会社は、おおよそ10年～15年で古い企業と化すでしょう。トラディションよりもイノベーションが現在のトレンドです。フェイスブックなどのウェブサイトを使いこなす人々にとっては、一般的な評判よりもリコメンデーションが、今日においては重要事項になっています。そのようなサイトは、企業よりもユーザーによって成長していきます。ものごとを決断する場合も「座って聞く」タイプから「実際に試して、見る」タイプへ、長期のニーズからそのときの要望へと変わりました。例えば、百科事典は長い間、知識の宝庫であり、とても高価な本でした。しかし現在、より多くの情報がウェブサイト自由に存在します。情報の民主化はこの10～15年で急速に進んでいます。

ライフステージも変化しています。19世紀、子どもが成人になるのは14～15歳でした。20世紀になり、子どもたちは成人になる前にティーンとなりました。そして21世紀になり、成人になるまえに、子どもたちはtween(10～12歳)を経てティーンとなり、KIPPERs(Kids in Parents Pockets Eroding Retirements: 学業を終え就職後も実家で親と暮らす20代後半から30代前半の若者)となります。人生設計とその歩みかたも階層構造からフラットへ、多くの組織の権限の構造も、意思決定への参画が平等となり、そのことにより人々はより生きる力を感じています。

10.お悔やみ

* Ms. Nalinee Puttsatheva氏 (チェンマイY M C Aの管理・財務部門元副総主事)

2010年11月14日に、5年にわたる癌との闘病生活の末に逝去されました。彼女は30年以上にわたりチェンマイY M C Aに勤め、多大な功績を残されました。Y M C Aの発展のための会社のマネージャーとして、Nalinee氏は素晴らしい働きをされました。会社の商品を国際的に広めて会社に大きな影響を与え、またタイ北部の農村の住民達に雇用の機会を提供することで、彼らに生きる道を与えました。

* Mr Ong Ai Teik氏 (シンガポールY M C A前総主事・執行取締役)

2010年11月1日(月)に主のもとへ召されました。66歳の生涯でした。Ong氏は総主事・執行取締役として1985年から1995年までの10年間、Y M C Aに尽力されました。彼は、ローカルY M C Aと他のY M C Aの連携の強化に大いに貢献しました。彼はまたアジア・太平洋同盟総主事会議会長を務めたことがありました。

残されたご家族のみなさまとそれぞれのY M C Aへ、心よりお悔やみ申し上げます。

11.今後のイベント・会議

日程	イベント	場所
2011年1月15日	カンボジY M C A パートナー・サポート・グループ (PSG) ミーティング	カンボジア
1月22~24日	東北アジアY M C A協議会	韓国・仁川
3月8日	各国総主事会議 第18回アジア・太平洋大会実行委員会 第2回アジア・太平洋ユースアッセンブリー 実行委員会	香港
3月9(午後2時)~12日	アジア・太平洋同盟常務委員会	香港
9月3~6日	第2回アジア・太平洋ユースアッセンブリー	マレーシア・ペナン
9月6~10日	第18回アジア・太平洋総会	マレーシア・ペナン

アジア・太平洋同盟 総主事 山田公平

主任主事 Cristina A. Dalope & Jose Varghese

アジア・太平洋Y M C A同盟

23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail ~ office@asiapacific Y M C A .org
